

豊富にある資源を よりある資源へ

人や環境に配慮し、最新・最高の技術で
リサイクルの限界へ日々挑戦し続けます。

TOP MESSAGE

リサイクル技術の
グローバルスタンダードを目指して

豊富産業の名前の由来は、「豊かに富む」、「豊かな富山」という意味があり、将来の夢を込めていきます。

昭和43年、リサイクル事業を手掛けた豊富商店として創業、以来、世界初となるマルチ解体機など産業機械の開発や、鉄スクラップ、自動車、電車などの解体におけるプラント設備の設計開発～製品の再資源化に取り組んでまいりました。これまでリサイクル産業の分野で国内外、約70件の特許を取得しましたが、これも廃棄されたものを100%再資源化することが我々に与えられた使命だと考え、技術を追求した結果です。

また、三豊工業追分工場における日本初の4重防音対策工場のように、無公害で美観を維持した建物にするなど、環境産業としてもこれまでの方針を維持し、展開してまいります。

現在、日本は人口減少社会を迎えており、今後のビジネスは世界戦略が必要です。
中でも航空機は世界的に解体システムが確立されておらず、弊社の国際特許を取得した技術を用いれば合理的で低成本、かつ高品位の資源リサイクルが可能となります。

常に新しい事業に挑戦し、次なる一手を先んじて打つことは事業発展には欠かせない大切な要素です。

我が社の技術が皆様の生活と業界の発展に少しでも寄与できれば幸いに思います。

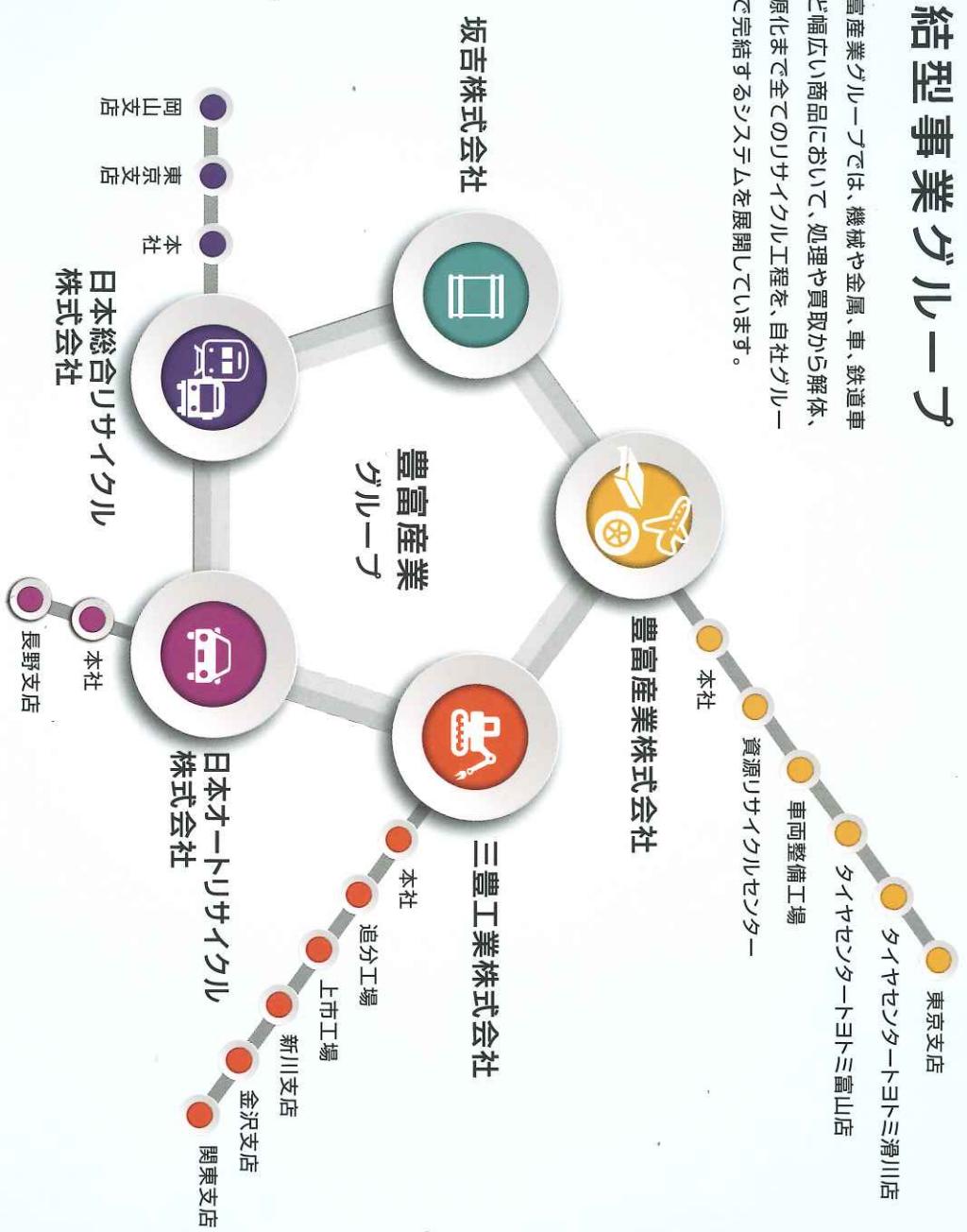


豊富産業グループ 代表取締役会長

高倉 可明

完結型事業グループ

豊富産業グループでは、機械や金属、車、鉄道車両など幅広い商品において、処理や買取から解体、再資源化まで全てのリサイクル工程を、自社グループ内で完結するシステムを開拓しています。



豊富産業グループの特徴

1 開発力

ガソリン濾過システム、マルチ解体機、大型スクラッパフレス剪断機、タイヤホイール分離装置など、常に時代の要請に応え、不可能を可能にする技術の開発に取り組んできました。

資源リサイクルのリーダーとして、有効資源をいかに有効かつ効率的に回収するかを考え、実現していくために、新たな開発への努力を続けています。

2 輸送力

豊富産業グループでは、約70台の自社所有車両によって、常に安定供給が可能な抜群の輸送力を誇っています。

また、交通法規の遵守はもとより、社内の力バランスをドライバー1人1人がしっかりと意識することで、コンプライアンスにおいてお客様に信頼されるパートナーとして、高い評価を得ています。

3 環境保全

工場に緑あふれる植栽を施し、全ての工場周辺に遊歩道や公園を造成し、地域の方々にも開放しています。また、自社保有のグランドゴルフ場や野球グラウンド場を開設し、地域行事に広くご利用いただき、地域との結びつきを大切にしています。



創業者が発案したマルチ解体機



自社所有車両



日本総合リサイクル 安全の鐘

沿革

History

2022年 9月 野球部 高松宮賜杯第66回全日本軟式野球大会(2部)優勝

2022年 5月 野球部 東日本軟式野球大会(Ⅱ部、網走)優勝

2022年 5月 航空機業界へ進出(国内初の大型旅客機解体)

2022年 4月 三豊工業上市工場の新事務所棟完成

2022年 3月 タイヤセンタートヨミ滑川店オープン

2021年11月 第9回環境省グッドライファード環境社会イノベーション賞受賞

2020年12月 坂吉株式会社、豊富産業グループへ加入(経営統合)

2019年 6月 三豊工業金沢支店、事務所棟及び主要設備、総地帯の全面改裝

2019年 3月 代表取締役会長 高倉可明が「富山新聞文化賞」受賞

2016年11月 代表取締役会長 高倉可明が中部地方発明表彰で「中小企業長官賞」受賞

2014年 6月 航空機解体に向けた米国視察で、日本企業では初めて米国の企業を中心に構成する航空機解体リサイクル協会(AFRA)に加盟

2014年 4月 「航空機圧縮装置及び航空機解体方法」が特許取得、その後アメリカ、中国、ヨーロッパでも国際特許取得

2013年 大型フレス剪断機「スクランプ剪断機」が特許取得

2011年11月 代表取締役会長 高倉可明が中部地方発明表彰で「富山県発明協会会長賞」受賞

2009年 6月 鉄道車両やバス等の大型車両の再資源化を目的として、日本総合リサイクル株式会社設立
国内初の完全屋内作業による鉄道車両解体を実施

2007年 7月 富山県滑川市追分に、国内初の4重の防音対策が施された全室内型シュレッダー工場である、三豊工業株式会社追分工場を新設

2006年 2月 松任工場を、三豊工業株式会社金沢支店として新設

2005年12月 豊富産業より鉄スクラップを取り扱う部門を分離し、大型スクラップの処理を目的とした、三豈工業株式会社を設立

2003年 8月 自動車の再資源化を目的とした、日本オートリサイクル株式会社操業開始
国内初の完全屋内作業による自動車解体を実施

2002年 6月 豊富商事株式会社が日本オートリサイクル株式会社に社名変更

2000年 5月 废油を比重分離して精製する「油水分離装置」が特許取得
その後業界発展のために無料開放

1997年 神鋼コベルコ建機株式会社と共同で「全油圧式マルチ解体機」を開発

1994年 6月 タイヤホイール分離装置が第25回高木発明賞受賞

1991年 1月 資源リサイクルセンター完成

1988年12月 電動式マルチ解体機特許取得

1985年 2月 一般廃棄物、古紙回収を主な業務とする、豊富商事株式会社設立

1983年 6月 石川県鉄工団地に松任工場新設

1970年12月 豊富産業株式会社設立

1968年 6月 金属スクラップの再資源化を目的として、豊富商店を創業

